

朝日嶽金輪寺

1. 朝日岳と金輪寺



しくみ

- 大朝日岳 24.26km - 朝日嶽金輪寺 - 薬師堂 24.26km
- 稲荷神社（もしくは秋葉山山頂）24.26km
- 上河原遺跡

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三处であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

（備考）

三处とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないか。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのではないか。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。

朝日嶽金輪寺

大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、弘仁年間（810～824）教旻が建立。周辺に大圓寺、平圓寺、朝日三十坊など宗教集落として成立していた。大沼浮島とともに朝日嶽信仰の一大拠点。朝日嶽先達とともに金峯山、熊野、高野山などにも引率、参詣する修行僧衆だった。しかし、天文年間（1504～21）坊社ともに焼失。すぐ近くには縄文時代から中世まで続いたとされる昭和~~新田~~遺跡が発掘されている。須恵器や土師器、そして青磁も出土しており、身分の高い豪族の存在も考えられている。
山形県朝日町大谷



備考「朝日町史」には、朝日町大谷と考えるのは多少の問題ありと書いてあったが、金輪寺がここにあったのは間違いない。発掘調査すればわかるだろう。特定する理由は、平安時代であり、菅原道真側室一党が移り住んだ大谷地区であること。開いた僧教旻が、空海と親しい日光男体山開祖の勝道上人の弟子であり、この場所は大谷日光山の麓であり、日光山神社跡地の直ぐ近くであること。大朝日岳が見える位置であること。なにより、平安京大極殿へ向かうしくみがここにあった。

西村山郡朝日町大谷

薬師堂

不詳。

備考航空写真を見たら小さなお堂が見えたので現地で確認した。地元の方に薬師様だと教えてもらった。

西村山郡朝日町大谷



稲荷神社もしくは秋葉山頂上

頂上の少し下に稲荷神社の祠がある。戦国時代の真木山城の出城。山頂には延享4年（1747）二代鈴木清助が秋葉神社を創建。明治40年（1907）7月焼失。43年再建。昭和59年、社屋の破損がひどく解体。

西村山郡朝日町大谷

<http://asahi-ecom.jp/?p=log&l=177852>

上川原山ノ神遺跡

平成10年（1998）に発掘調査が行われ、大きなものでは直径40センチの木の柱が24本発掘された。穴を掘って柱を埋める工法。約3000年前の縄文時代晩期と考えられ、縄文遺跡において柱根の発見は県内ではじめてだった。現在は高畠や遊佐で見ついているがいずれも打ち込み式。

西村山郡朝日町舟渡

備考

朝日嶽金輪寺と大朝日岳はどのようにつながっているか調べた。はじめはなにも見つからなかったが、秋葉山に稲荷神社があることや、ため池の近くに薬師堂の小祠があることがわかってほっとした。どちらも小さな祠だが金輪寺がなくなり役割を終えたと考えるとうなずける。山形県では初めてという柱根式縄文遺跡の上川原遺跡にも偶然つながっている。

2. 平安京大極殿



しくみ

■ 有重神社 542.31km - 平安京大極殿 - 朝日嶽金輪寺 542.31km

■ 阿蘇神社 542.31km - //

■ 平安京大極殿 542.31km - 朝日嶽金輪寺 - 明王院不動寺 542.31km

■ // - 常德寺 542.31km

■ // - 妙法院 542.31km

しくみ詳細

■ 有重神社 542.31km - 平安京大極殿 - 朝日嶽金輪寺 542.31km

■ 阿蘇神社 542.31km - //

左極

有重神社

祭神/毘沙門天

大正期に財を成した木下●三郎氏が住した処であり、ここで印刷工場を創業し県内でも指折りの印刷技術と販路を広げ巨万の富を得て、松原町へ移転されたが、残された神社は地元有志で寄進された。

佐賀市嘉瀬町大字中原

阿蘇神社（若宮さん）

不詳。熊本県八代郡氷川町宮原



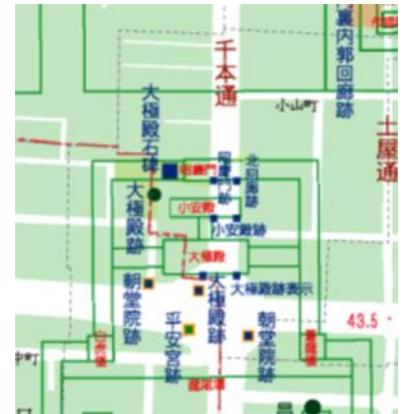
しくみ～定規とコンパス～「平安時代編」2017



中道角

平安京大極殿

桓武天皇は延暦3年（784年）に平城京から長岡京を造営して遷都したが、これは天武天皇系の政権を支えてきた貴族や寺院の勢力が集まる大和国から脱して、新たな天智天皇系の都を造る意図があったといわれる。しかしそれから僅か9年後の延暦12年（793年）の1月、和氣清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。場所は、長岡京の北東10km、二つの川に挟まれた山背国北部の葛野郡および愛宕郡の地であった。事前に桓武天皇は現在の京都市東山区にある將軍塚から見渡し、都に相応しいか否か確かめたと云われている。日本紀略には「葛野の地は山や川が麗しく四方の国の人が集まるのに交通や水運の便が良いところだ」という桓武天皇の勅語が残っている。延暦13年（794年）10月22日に桓武天皇は新京に遷り、翌11月8日には山背国を山城国に改名すると詔を下した。明徳3年（1392年）の南北朝の合一以後は、土御門東洞院殿が正式の皇居となって明治2年（1869年）、明治天皇の東京行幸時まで存続した。「大極殿」の名は、万物の根源、天空の中心を意味する「太極」に由来する。すなわち、帝王が世界を支配する中心こそ「大極殿」の意である。京都市上京区小山町千本丸太町交差点



右極

朝日嶽金輪寺 ※上記参照

備考

大極殿を東西から護るしくみ。平安時代に役目を果たしていた。どちらも小さな神社になってしまったことも納得する。金輪寺が、鎌倉時代の「朝日嶽千年封じ」の際に失くされなかったのは、天皇の護りしでの役割が続いていたからだろう。おそらく京都御所が金輪寺（朝日嶽信仰）や大沼浮島の呪縛を恐れて、1392年に土御門東洞院殿に移ったのだろう。およそ100年後に金輪寺は焼かれた。

- 平安京大極殿 542.31km - 朝日嶽金輪寺 - 明王院不動寺 542.31km
- // - 常德寺 542.31km
- // - 妙法院 542.31km

明王院不動寺

平安京遷都の前103年（691年）、今から約1320年前創建の寺である。空海作「石像不動明王」が本尊。

平安京造営時（794年）、桓武天皇は王城鎮護のため平安京の東西南北に四つの磐座（石倉）を定めたが、明王院はその一つで、「南岩倉」と称したと伝えられている。天曆年間（947～957年）の賀茂川氾濫による堂舎流没や、応仁の乱で荒廃し、石像も塵芥の中に埋もれてしまった。天正年間（1573～1592年）豊臣秀吉は、聚楽第造営に際して苔むした本尊不動明王を得て靈験を感じ、旧知に堂舎を建立してこれを再び奉安したという。太平洋戦争末期京都にも空襲が来ると言われて、

本尊を本堂下の磐座に避難させた。それから約70年やっと元の厨子に安置し、2012年11月24・5日、牛若丸・弁慶の旧「五条大路」活性化の一環としてご開帳を盛大に執行した。

京都府京都市下京区石不動之町



常德寺

常德寺（じょうとくじ）は、山号を知足山という。寺伝によれば、平安時代に創建された知足院（ちそくいん）を前身とするという。常盤御前が安産祈願に地蔵菩薩（常盤地蔵）を参詣したという。

日蓮宗、本尊は十界曼荼羅。

平安時代、918年以前、船岡山南西（紫野雲林院付近とも）に知足院が建立される。天台宗で、不動明王像、如意輪像、釈迦像の三尊を本尊とした。（「西宮記」「枕草子」）1155年、第76代・近衛天皇が亡くなり船岡山・西野で火葬にされ、遺骨が一時、当院・不動堂に安置された。後に、安楽寿院に改葬される。1156年以後、保元の乱で関白・藤原忠実が次男・頼長を支援したため、後白河法皇（第77代）の怒りを買って当院に隠棲した。この頃、寺運隆盛を誇り、境内周辺には、女房播磨堂、不動堂、丈六堂など複数の伽藍が建ち並んでいた。1162年、忠実はこの地で没した。中世（鎌倉時代-室町時代）、知足院は廃絶したとみられる。

京都市東山区大黒町通五条下る袋町300

妙法院

山号は「南叡山」、本尊は普賢菩薩、開基は最澄と言われています。そして、「天台三門跡」のひとつで、「天台三門跡」とは、「青蓮院」、「円融院（三千院）」そして、「妙法院」である。山号の「南叡山」が示すように、初めは「比叡山」西塔の支院であり、初代門主伝教大師最澄とされているが、実質的には、1160年の平安中期に藤原為光が創建した「法住寺」を包摂して造った「法住寺殿」の近くに、御所の鎮守社として「新熊野社（いまくまのしゃ）」、「新日吉社（いまひよししゃ）」を勧請し、西塔本覚院の「昌雲」が別当となり、ここに里坊を開いたことが始まりとされている。

京都府京都市東山区妙法院前側町447

備考

平安京大極殿に朝日嶽金輪寺の気をひくためのしくみ。あるいは逆か。平安京遷都より明王院不動寺のほうが100年古いので、大極殿と不動寺の同距離に金輪寺を設けたことになる。

3. 朝日嶽金輪寺の役目



しくみ

- 大沼浮島（出島）5.93km - 朝日嶽金輪寺 - 豊龍神社 5.93km
 - 浮島稻荷神社 5.93km
 - 春日神社 5.93km
- 大沼浮島（出島）536.79km - 平安京大極殿 - 豊龍神社 536.79km

勝ち頂角

朝日嶽金輪寺 ※前頁参照

左脇侍角

豊龍神社

承和11年（844）に延暦寺の僧安慧（あんえ・円仁の弟子）が奥州を巡り歩いて、講場をその地に開いた時、龍の神霊を祀って東五百川の鎮守として、別当「東守寺」を建立したと記されている。さらに慶長年間（1596～1615）に寒河江肥前の守が社殿を再建し、明治維新の廃仏毀釈によって豊龍神社となり、東守寺住職は復職して豊嶋氏を称したとする。

明和年間（1764～72）に左沢在住の松山藩医であった羽柴玄倫が誌した『宗古録』には、安慧がこの地に天台の教えを広める決意をしたとき「瑞巖美麗の姫大神」があらわれ「我こそ海童神（わだつみのかみ）の娘なり」と名のり「汝の護法善神とならん」と誓ってくれたのが豊玉姫大神であるという。

さらに、安慧みずから大般若経600巻を書写して筐（はこ）に納め、この山上に埋めたと述べ、山号を「宝経といい或は宝筐と作る」と書いている。

山形県西村山郡朝日町宮宿

右脇侍角



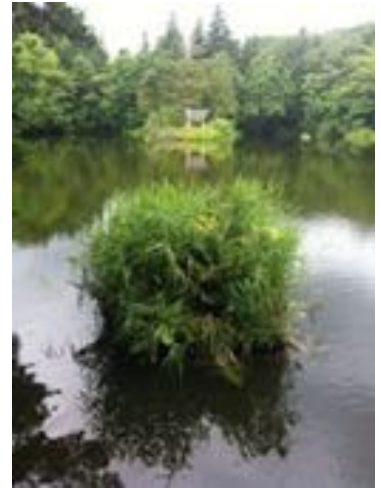
大沼浮島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼

備考 浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真/浮島と奥に出島）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。



同距離

浮島稲荷神社

祭神は「宇迦之御魂命」「天熊之大人神（合祀神）」。神池の大沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼

備考 大行院最上家（宮司）系図の脇書に730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述がある。

同距離

春日神社

永正元年（1504）八ッ沼城主 三代原美濃守慶秀が、信仰していた春日明神を勧請した。明治期には西五百川村の総鎮守として村社に列格。祭神/天児屋根命、建甕槌命、外四柱。例祭日は8月15日。旧暦の閏年には神輿渡御、八ッ沼獅子踊り、奴振りなどの大名行列が盛大に行われる。

山形県西村山郡朝日町三中

備考 まだ金輪寺が残っていた頃の創建か。



松保の大杉

樹齢約1,100年、根周14.7m、胸高直径3.38m、約3mの上部で多くの枝を分かち、枝は四方に張り出して垂れ下がり、西側の一枝は地に接して着根し、すでに親木と離れて独立している。主幹は約10mの上部で四幹に別れ直上し、高さおよそ26mにおよび、樹冠は円錐形をなして一樹で森を形づくっている。

日本海側に自生する杉の一種で、山形県下の杉では第1位の巨樹とされている。昭和28年8月31日山形県指定天然記念物となる。

山形県西村山郡大江町小清

備考 天然記念物の大杉は豊龍神社にもあり、創建した承和11年（844）に植えたと言われ、やはり樹齢1100年以上とされている。航空写真を見ていると線がぶつかる大杉前の水田が神社境内に見える。同じ歴史を持つのではないか。



負け頂角

平安京大極殿 ※前頁参照

備考

はじめて見つけた朝日町から都に向けられた「十字架封印型しくみ」。探せばもっとあるのかもしれない。通常このしくみは、都から大朝日岳や大沼浮島、早池峰山に幾重にも施されて封じられている。

脇侍に磐座信仰時代の大神地大沼浮島と円仁の弟子が作った豊龍神社（844）。勝ち頂角に空海と親しい勝道上人の弟子の朝日嶽金輪寺（810～824）。道真左遷以前から、平安京へ圧力をかけるために作っていたしくみのだろう。怨霊菅原道真の復讐の際は威力を発揮したのではないか。しかし、創建年からすると、豊龍神社が一番新しいので、空海系の仕業にあとから円仁系が脇侍として加担していることになる。まずは大沼浮島と浮島稻荷神社の同距離に金輪寺が作られ、豊龍神社を創ってしくみを完成させたと考える。ただ、金輪寺は空海系、豊龍神社は最澄系。どう考えるべきか。さらに、正確な位置を確認していないが、大極殿へ向かう線を金輪寺の背後に伸ばすと、どうやら日光山神社、そして三角点ではないが日光山頂上にぶつかる。朝日岳の龍神と日光権現の力を使って平安京に復讐したのではないだろうか。



